

<社会>

「本物の日本料理」を目指して

みなさんは外国で、変わった味の日本料理、日本語表記がおかしな日本料理メニュー、とても日本料理と思えない日本料理店に出会ったことはありませんか。

ここ香港には、約 1,290 店の日本料理店（香港の飲食店約 17,000 店のうち 7.8%を占める）がありますが、その他に「日式」と呼ばれる「日本料理風」の飲食店があります。それらの多くは、経営・調理・サービスのすべてにおいて日本人が関与せず、店内は日本をイメージしているものの、味も見た目も日本のそれとは遠くかけ離れ、香港に住む日本人をがっかりさせています。

しかし最近、香港人が手掛ける日本料理店の中でも、日本人を納得させる日本料理を提供する飲食店が増えています。

とある海鮮丼専門店は、スタッフの中に日本人はいませんが、毎日築地から新鮮な魚を仕入れ、日本人の監修を受けた調理方法や具材の並べ方をマニュアル化して厨房に張り出し、日本のクオリティを保つために懸命に努力しています。丼の値段は 250~300 香港ドル（約 3,700~4,500 円）と、かなり高めですが、毎日行列ができるほどの人気です。

また、別の香港人オーナーがフランチャイズ展開する抹茶スイーツの店は、日本の本店の商品よりもさらに高級な乳製品を材料に使用し、より「日本らしさ」を追求しています。抹茶ソフトクリームの値段は 42 香港ドル（630 円）と本店の価格の 2 倍以上しますが、抹茶スイーツブームの後押しもあり、寒い日でも 1 日 500 個以上を売り上げる人気だそうです。

双方のレストランオーナーが共通して追求しているのは「価値」です。昨年は、香港からの訪日客が年間 189 万人に達し、香港人の 4 人に 1 人が日本を訪れている計算です。彼らは日本で本物の日本料理の味に接し、本物の味を知っています。「日式」が日本の味ではないことをすでに知っているのです。「本物の日本料理の『価値』を知る香港人なら、その『価値』のために出費を惜しまない」とオーナーは言います。競争の激しい香港において、これからの日本料理は、香港人に認められる「価値」を提供していかなければ、生き残れない時代に入っているのかもしれない。



【写真】
「沖縄料理」を謳った料理店（左）と、日本人経営で、地元で人気の寿司店（右）

香港行政長官選挙を控えて

香港政府のトップである行政長官を決める 5 年に 1 度の選挙を 3 月 26 日に控え、5 名の候補者が出馬を表明しました。

5 名の候補者は以下のとおりです。

- 林鄭月娥氏（政府のナンバー2 で前政務官）
- 曾俊華氏（政府のナンバー3 で前財務官）
- 葉劉淑儀氏（新民党首席議員）
- 胡国興氏（元高等法院判事）
- 梁国雄氏（急進民主派）

有力視されているのは林鄭氏と曾氏で、特に林鄭氏は中国中央政府の支持を受けていることから大本命とされています。

以前から、香港市民は行政長官選挙にあまり関心をもっていません。というのも、行政長官選挙は、各業界団体から選ばれた選挙委員 1,200 人による投票によって選ばれ、その選挙委員の半数以上が中国中央政府を支持する「親中派」が占めているからです。候補者も、急進民主派の梁氏を除いては、程度の差はあれ親中派といわれており、香港市民の民意が行政長官選挙に反映されることはないのです。

その中で、今回注目されているのが前財務官の曾氏です。9年間に渡り香港政府の中枢を担ってきた一方で、3年前の学生デモに代表されるような「民主派」の学生たちにも理解を示すなど、その柔軟な姿勢から民主派政党をはじめ、香港市民の支持を受けています。民主派の選挙委員は全体4分の1にあたる320名おり、その票を獲得すれば曾氏勝利の可能性もあると見られています。

3年前の学生デモ以来、香港政府は、中国中央政府の影響を強く受ける一方で、それに抗う一部の過激な民主派議員によって議会が中断されるなど、混乱が生じています。あと31年とされる香港の一国二制度が今後どのように維持されるのか、今回の行政長官選挙の行方に少なからず注目が集まっています。



香港・広東省の見本市予定（2017年3月～2017年5月）

香港

見本市名	場所	期間
国際ジュエリー展	HKCEC	3/2～3/6
香港フィルム&TV マーケット展	HKCEC	3/13～3/16
APLF レザー&マテリアル展	HKCEC	3/29～3/31
グローバルソースエレクトロニクス	亜州国際博覧館	4/11～4/14
香港エレクトロニクスフェア	HKCEC	4/13～4/16
グローバルソースモバイルエレクトロニクス	亜州国際博覧館	4/18～4/21
第 32 回香港ギフト&プレミアムフェア	HKCEC	4/27～4/30
香港国際印刷・包装展	亜州国際博覧館	4/27～4/30
HOFEX2017（国際食品・飲料・レストラン・サービス展）	HKCEC	5/8～5/11

※ HKCEC：香港コンベンション&エキシビジョン・センター

※ 亜州国際博覧館：アジアワールドエキスポ（香港国際空港側展示会場）

広東省

見本市名	場所	期間
第 39 回国際家具フェア 1st（モダン、クラシック、アウトドア家具）	琶洲会場	3/18～3/21
第 39 回国際家具フェア 2nd（ホテル、オフィス家具）	琶洲会場	3/28～3/31
第 14 回広州自動車空調システム・パーツ展	PWTC	4/14～4/16
深圳国際アンダーウェアマテリアル&ファブリック展	SZCEC	4/19～4/21
第 6 回国際鉄骨建築・資材展	PWTC	5/12～5/14

※琶洲会場：中国出口商品交易会琶洲展示館（広州）

※PWTC：保利世界貿易中心（広州）

※SZCEC：深圳コンベンション&エキシビジョン・センター

上記の見本市は予定が変更になる場合もありますのでご留意下さい。

★トピックスレポート（香港人スタッフ便り）★

クルーズ船ターミナルの発展

香港のフェリーターミナルは、かつて尖沙咀（チムシャツイ）フェリーターミナルの 1 箇所しかありませんでした。尖沙咀フェリーターミナルには 5 万トン級船舶用の埠頭が 2 つありますが、フェリーの増加に対応できず、フェリーの多くは港近くの海上やコンテナ船用の港に停泊せざるを得ませんでした。

アジア近隣国を周遊するクルーズの増加に伴い、2013 年 6 月、香港政府は 72 億香港ドル（約 1,080 億円）を投じて旧啓徳（カイタック）空港の跡地に新たなクルーズ船ターミナルを建設しました。

新ターミナルは、香港の主要エリアから 10 キロ、香港国際空港から 42 キロに位置しています。新ターミナルには無料 Wi-Fi サービス、近くの地下鉄駅までのフリーシャトルバス、両替所があるほか、飲茶、本格的な中華料理、世界各国の料理、香港スタイルや西洋スタイルのカフェ、シャンパンバーなどさまざまな飲食店を備えています。また、ターミナルの屋上は広さ 23,000 平方メートルの空中庭園となっており、一般市民も展望台や噴水で寛ぐことができます。

2013 年のオープン後、新ターミナルのクルーズ船の停泊日は、オープン当初の年間 15 日から 2016 年には年間 112 日に、ターミナル利用客も、オープン当初の年間 35,000 人から 2016 年には年間 32 万人に増加しました。クルーズ船の停泊地として、香港が徐々に選ばれつつあるのです。

クルーズ旅行世界大手のロイヤル・カリビアン・インターナショナル社は、2016 年 10 月、アジア最大級となるクルーズ船「オペレーション・オブ・ザ・シー」号を導入し、香港を母港として日本と台湾を巡るクルーズを提供しています。同社によると、乗船客の 20%が中国本土および香港からであり、今後、香港～マカオ大橋の開通や、中国本土～香港間の直通列車の発展により、ますます中国本土の客が香港から乗船するのではないかと予想されています。私は、クルーズ船の人気は今後も衰えず、香港発のクルーズ市場は拡大していくと期待しています。

